

2023 年度 大学教育に関するアンケート

2024 年 3 月で初期臨床研修を修了する本学卒業生にアンケートを実施しました。
調査票を郵送し、web データ集積管理システム REDCap でご回答いただきました。

実施期間	2024 年 2 月 15 日～3 月 31 日
2022 年度就職者数	86 名
有効回答数	36 名 (回答率 41.9%)

1 大学の教育で役立ったこと

- ・ SSC での実習をはじめとする手技全般を練習できたこと(6)
- ・ 患者さんへの気遣いや姿勢など、医者として社会で働く上で必要なことを学んだ(5)
- ・ 疾患に対する基礎的な知識が身についたこと(3)
- ・ 統計の講義(2)
- ・ 5,6 年次の CC(2)
- ・ 医療面接実習など、患者さんとのコミュニケーションの取り方(2)
- ・ 積極的に挑戦する機会を得にいく姿勢の重要性を教えてもらったこと(2)
- ・ 智仁勇
- ・ 男気が上がりました
- ・ オスキーで学んだ事は役立っています
- ・ 様々な診療科の先生にすぐコンサルトできること
- ・ 症例発表等で文献検索することで良い意味で慣れてきた
- ・ 市中の病院ではなかなか見れない超重症の患者さんをみれたこと
- ・ 実習講義ともに先生方が強調されていたことが実臨床で役に立つ場面が多々あった

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

臨床実習をはじめとする本学の医学教育が卒業後も活かされており、十分な教育プログラムを提供できていると評価する。

2 大学の教育であったほうが良いと思うこと

- ・ 統計や基礎を学年の後の方にやりたい
- ・ 線形代数とかの勉強。臨床の授業は市販の映像授業にアウトソーシングしていいと思います。
- ・ 比較的典型的な症例を学生時代に経験すること
- ・ カルテの使い方、ブラインドタッチの練習
- ・ シミュレーターや実地での実技や手技の実習ではなくて、鑑別診断やカルテの書き方など座学系のことをもっと学びたかった
- ・ すでに授業はあったと思いますが、主訴からの鑑別を考える機会を増やすこと
- ・ 救急教育
- ・ 診療にあたる際の優先度を考える授業など、緊急での対応について考える教育。その場での確にすべき優先順位を考える授業などあればよいと考える。

- ・手技などの実践的練習があれば面白さがわかると思います
- ・初期研修で役立つような心電図の読み方やエコー実習、症候学などがもう少しあっても良いかと思いました
- ・輸液のオーダーの仕方、入院指示など臨床に即した内容。CT の読影など。
- ・薬品の一般名、用法用量、血液検査の読み方
- ・病棟で必要な知識
- ・適切な医師指示に繋がるような教育。適切な薬や必要な検査は教科書に載っているので勉強出来ました。
- ・モチベーションがある学生に限って、診療にもっと参加する機会を与えてほしい
- ・長期的なポリクリ
- ・各科の実情や働き方に対するリアル
- ・普段 MSW の方にやっていただいているような業務の内容
- ・実技
- ・臨床講義
- ・特になし(6)

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

参加型臨床実習をより一層充実すべきと考える。

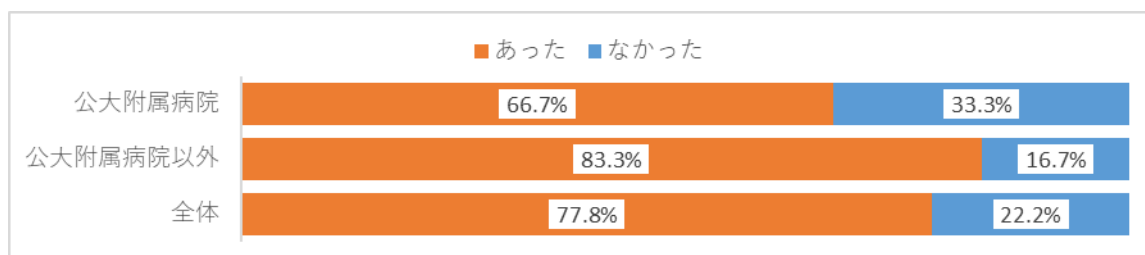
3 大学生の時にしておけばよかったと思うこと

- ・医学全般の勉強(5)
- ・留学(4)
- ・英会話(4)
- ・海外旅行(2)
- ・しっかり遊ぶこと(2)
- ・興味のある分野をみつける　そもそも何かに興味を持つ
- ・common disease に対する知識を身につけておく必要があった
- ・コロナであまり実習ができなかったのもっとしておきたかった
- ・先生の IC の見学
- ・担当患者さんの疾患の勉強、病棟の対応など
- ・実習で患者さんの診察をもっと経験しておけば、研修医になってからもう少しスムーズに診察できたのではないかと思う
- ・統計学の勉強にもう少し力を入れておくべきであったと考えている。現在、学生時代の統計学・メディカルデータサイエンスの授業のレジュメを振り返る機会が多い。
- ・税金や保険やお金の勉強
- ・簿記や大学数学の勉強
- ・論文
- ・部活
- ・いろんなバイト
- ・特になし

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

コロナ禍の影響が見受けられる。

4 2年間の研修で、英語が必要になった場面はありましたか？



- ・ 論文抄読会(11)
- ・ 外国人を診察するとき(9)
- ・ 救急外来での外国人患者対応(6)
- ・ 文献検索(2)
- ・ 学会
- ・ 英語での発表
- ・ 留学生との交流時
- ・ 外国人講師を招いての勉強会

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

診察におけるコミュニケーションについては M5CC での英語における医療面接実習が、論文抄読については M2 の医学英語論文の読み方が有用と思われるが、継続した英語教育が必要と考える。